

■大原重徳 公卿。政治家。幕府に攘夷を督促する朝廷の特使となり、新政府発足後の発言力が大きくなった。

おおはらしげとみ

宣長没・・・1801＝ 大原家4代重尹の第5子として京都に生まれる。母は前大納言唐橋在家女。

青洲麻酔手術1805＝ 4歳： 兄の5代重成の養子となり、叙爵。

浮世風呂・・・1809＝ 8歳： 光格天皇の侍童となる。

・・・・・・・1810＝ 9歳：

・・・・・・・1815＝14歳： 元服して、宮中に昇り、大和権介、従五位上。

水野忠成老中1818＝17歳：

群書類従完結1819＝18歳：

左馬頭、侍従を経て、

シボク事件・1828＝27歳：

富籤流行・・・1830＝29歳： 右近衛権少将、

富籤三十六景1831＝30歳： 右近衛権中将、従三位。

大塩平八郎乱1837＝36歳：

適塾ワブソ・1838＝37歳： 重成の死により、大原家6代の当主となる。

阿部正弘首座1845＝44歳：

孝明天皇・・・1846＝45歳： 孝明天皇即位後、重用され、

ペリー来航・1853＝52歳： 米国使節ペリー来航以降、もっぱら攘夷論を主張し、

開国開港・・・1854＝53歳： 勅命により、内裏炎上後の造営を差配。

安政大地震・1855＝54歳：

五ヶ国条約・1858＝57歳： *日米修好通商条約締結問題が朝幕間に緊張をもたらした時、前水戸藩主徳川齊昭と志を通じようと、大坂城代土屋寅直の家臣大久保要を介して水戸に赴こうとし、秘かに京を離れて大坂に至るも、目的を達することができなかったが、許可なく出京したことは特旨を以て罪を許され、尊攘公家として著名となる。

桜田門外変・1860＝59歳：

生麦事件・・・1862＝61歳： *朝廷は島津久光の献言により、勅使を幕府に派遣することとなり、勅使に任ぜられ、左衛門督となる。江戸城において、幕政を改革し、攘夷の方策を整うべしと勅旨を將軍に伝え、一橋慶喜の將軍後見職、松平慶永の政事総裁職就任が実現する。帰京後、国事御用掛となるが、勅使となった際、薩長融和をはかるため勅旨を改竄したことを責められ、

8月18日政変 1863＝62歳： *落飾・閉門を命ぜられたが、まもなく罪を許されるも、

禁門の変・・・1864＝63歳： 復飾し、

薩長同盟・・・1866＝65歳： *22卿列参の中心人物となって朝政改革を建言して、かえって勅勘を蒙り、閉門を命ぜられた。

大政奉還・・・1867＝66歳： 新帝踐祚で許され、従二位。王政復古派公家として活躍、小御所会議では山内豊信と論争。参与となり、

明治維新・・・1868＝67歳： 権中納言。刑法官知事に任ぜられ、

戊辰戦争終・・・1869＝68歳： 議定となり、さらに上局議長に転じ、集議院長官に任ぜられた。永世禄千石を受け、

初の日刊新聞1870＝69歳： 本官を辞し、麿香間の出仕となって、

明治6年政変 1873＝72歳：

琉球処分・・・1879＝78歳： 没した。